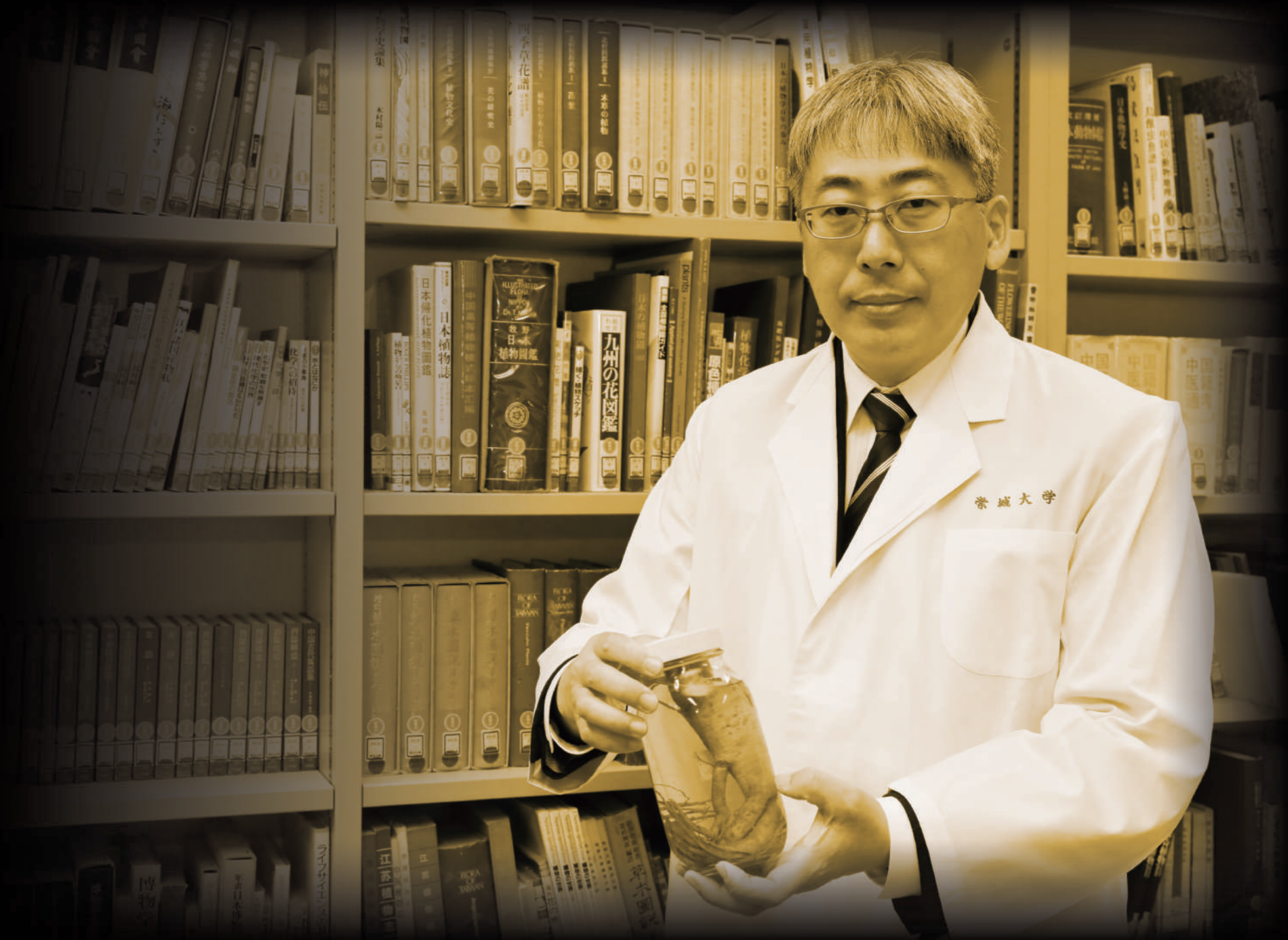


植物を使って病気が治る?!

“生薬”を化学的に分析し 効能をもたらす成分をつきとめる

「ある植物を使ったら病気が治った」、このような古くからの知恵をもとに植物・動物・鉱物を乾燥・細断して薬にしたものを「生薬」といいます。私はこの生薬を化学的に分析し、効能をもたらす成分をつきとめる研究を進めています。医食同源といわれるように、食品としても利用できる生薬について糖化抑制作用を調べたところ、滋養強壮薬として著名な「イカリソウ」に強い作用を発見しました。糖化とは、タンパク質と糖が結びつく反応のことで、その後の酸化開裂反応によって生成した糖化最終生成物(AGEs)は老化や糖尿病合併症の増悪因子として注目されています。詳細な成分研究により、イカリソウの主成分の「プレニルフラボノイド」がAGEsの蓄積を抑制する、という見解を導きだしました。今後さらに研究が進めば、糖尿病の合併症予防薬をはじめ、抗糖化作用のあるサプリメントや化粧品といったイカリソウ含有商品の開発が期待されます。生薬の力を現代化学で証明することで、多くの人々の健康維持に貢献するため、これからも研究を続けていきます。



薬学部 薬学科 池田 剛 教授



崇城大学

SOJO UNIVERSITY

薬学部	生物生命学部	工学部			情報学部	芸術学部			
薬学科	応用微生物工学科	応用生命科学科	機械工学科	ナノサイエンス学科	建築学科	宇宙航空システム工学科	情報学科	美術学科	デザイン学科

〒860-0082 熊本市西区池田 4-22-1

問い合わせ(入試課直通) TEL:096-326-6810

そうじょう大学 検索